



13
1.311



3遠へ門
1311
1-5

明治三十九年七月二十九日

水谷弓彦氏寄贈

~~日
目
吉
印~~

球唄之入娘初編叙

持まき多鞠唄は何時の頃より。強ひて免
まむ。過解のいまご考へ。海をたぐひて。ぬい
か。くより傳へし。て。見たり。あつた。き。を。知
り。多。の。物。の。き。の。本。意。の。み。ま。り。ん。り。に。た
じ。め。い。つ。を。か。を。あ。く。識。し。て。の。た。り。し。年。の。底
成人の。の。あ。の。飛。の。書。ふ。ら。お。記。束。を。記。し



かまはるゝ一考^{いつかん}なりて見えぬやうにわづらひも徳^{とく}を
感^{かん}概^{がい}の條あり。貞烈^{てんれつ}婦^ふ人の功^{こう}績^{せき}を
述^のべよめ傳^{つた}へを世^よに失^{うしな}へり。小^こ明^{めい}り
つらとて悔^{くわい}よまのふ淫^{いん}にまじりて始^{はじ}
免^{めん}ふらとてい^い酒^{しゆ}やぶまのせしめられ。
始^{はじ}つらとてい^い酒^{しゆ}やぶまのせしめられ。今^{いま}の
著^{あつ}るぬまはるゝ固^こ酒^{しゆ}のせしめられ。今^{いま}の
著^{あつ}るぬまはるゝ固^こ酒^{しゆ}のせしめられ。今^{いま}の

りの一^{いつ}遠^{えん}東^{とう}の家^のの徳^{とく}人^{じん}もあら
らまはるゝ徳^{とく}も。世^よの城^{じやう}をいふ人^{じん}も
その一^{いつ}助^{すけ}も。世^よの徳^{とく}人^{じん}もあら。今^{いま}の
の一^{いつ}助^{すけ}も。世^よの徳^{とく}人^{じん}もあら。今^{いま}の

拙著書

徳

女兒春遊手毬三圖

杖をもちこの
毬を打毬



遺念方丈一打毬の原韻不
いとく毛を丸めておののふり
まの辨色立成小毬をお
曲らぬ杖をもちこし木を
毬をおくそのと絶て

杖をもちこしを撞るのと

おじや

手毬のこ

杖をもちこしを撞るのと

いとく毛を丸めておののふり

まの辨色立成小毬をお

曲らぬ杖をもちこし木を

毬をおくそのと絶て

杖をもちこしを撞るのと

おじや

下畧





林
 女
 幸
 野
 傳
 吉
 女
 鼓
 打
 良
 人
 死
 して
 婿
 婦
 と
 なる

〇
 須
 屋
 彦
 兵
 衛
 が
 次
 女
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる



〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

〇
 於
 民
 鼓
 打
 幸
 野
 傳
 吉
 が
 妻
 と
 なる

浪
三
艷
情
一
而



○中國の浪人
安田幸八

○絹屋彦兵衛の女児は絹
危難を通り恩不
より図らば幸八を
夫婦の心

推
レ
テ
テ

亡
命
矣

寫
呼
奇
哉

月下
氷人
巧

三月
六日

あき
あき

か
さ
し

独
著
也

男
の
魂



松亭金水編次

河津箱や

ふと存

くは年

人の

え教

拙著也



迷唄二人娘初編卷之上

東都

松亭金水編次



回

おうしくの山谷通ひの白き馬小跨りて小室節を唄いせ
つる。まを伴達の通客とあせりてい物かえて入て由
よく知る新との頃合の祇祈町より観音大士の山堂並
ま一田の郊原もて左右の松杉木立然と枝うち交
る新由も脱木並樹の名も送まら。さきむ荊曲詠を

握め人の見たりきざり。日田又書のみあるとけん。ま
かるよ人の年まご二十四五あるく。両刀を横へて由
まざる富貴の人とてえは羽織をりの著流しれ片
襦しり日和下結裡畫の音を唱へつ。未アアア
止り手を拵きく小首を傾け「テあるよア異ごり
アノ返声の定う小女奈し。小強様を更であけりやア勾
引的吉利と見不差ひわね。可きさうふト独活傍の
菘をさうとゆく。声を導す小半町わけが果して年の

以十七八ある婀娜美女を捕へる侍二人連逃んとするを
抱分任せ不お伏せて。我様まんとする兼勢小美女の
一せ慈念の声をさうあげ尻を震り。踊り舞へど甲
斐あき旅月力。さう小詮方あき容をえり。強出る
件の青春物を由いそんま美女を捕へ侍而個を
突除き。思ひゆらぐをを放し。二足と足とちやくと
下りまがら小眼をむき出。「ヤイ巳の何処の奴ぞや
抜不突飛しとふ。合点しねト拳をあげ。鬼るおろ

此方の一個の在る林の枯枝を。雨でらち掛る。ま
得らうと此を交し。大庭小件の枯枝を奪ひらう。ま
獲えたらち揮き。兩個の侍あつく小故し。うーと
思ひし。腰ある刀を引抜き。切て蕙る小青春の
止るを得る。枝あせ。兩個を對面。交の抜き。う
ま妻の桃を歎ひ。が。兩個の元素。古きもの。まらう。ぬ。平
の。碎。蕩け。足の端所。由。定まらば。お。太刀。助。中。狂。ふ
らう。更。小。兎。の。う。く。く。中。怖。う。と。お。い。あ。う。ね。む。も。氷。の。刃。を

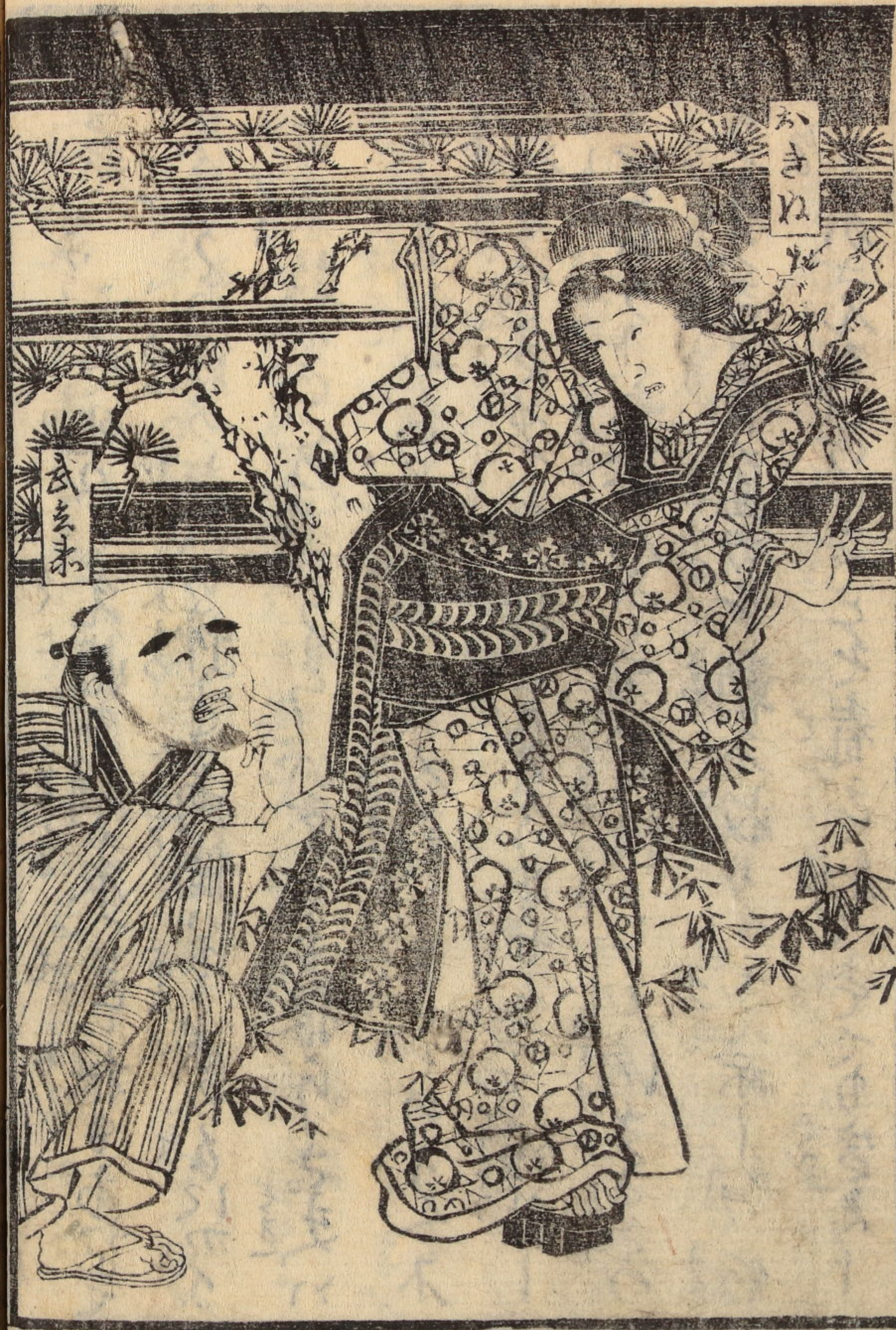
らち揮き。う。海。小。梅。が。う。と。抜。あ。へ。る。刀。の。切。味
刀。よ。と。う。え。不。所。つ。く。ま。一個の侍。有。ま。ら。う。舞。へ。う。ひ。て
切。き。げ。ら。う。う。こ。し。ひ。の。平。強。伏。す。ま。ま。と。強。く。個。の。侍
死。物。狂。ひ。小。あ。う。る。切。先。か。の。青春。が。三。の。腕。を。七。寸。を。う。り。破
ら。う。と。流。る。血。を。小。怒。の。ま。あ。う。早。と。端。ご。お。太。刀。を。交。損
ぶ。と。美。甲。を。三。つ。小。あ。ま。と。切。竹。く。ま。お。を。あ。ら。う。ん。例。こ。う。
依。青春。の。ま。ま。を。う。り。て。二。の。腕。の。痕。を。拭。小。腕。と。依。ま。ま
血。い。あ。ま。と。袖。の。被。も。股。小。流。こ。と。母。怖。の。ま。ま。侍。あ。ふ。

愛女の宿より傍らに倒れしをばあはれもあはれや
此の動るるは昔昔を死へしよりて病ふをさうひ
記し「コウく愛女さん彼より一あせ。あおを我様と西個
の奴等この通りあるてはせらる。モウあおの氣遣へし
あうー昔侍も碎狂りの何指りの祓う何処の人。ま芝
些とも知らねが不義強擄と一目で又さう。ま逆教
てあおの雅美を助へあげうとあつて所が又おの味は
あつちやア跡へさうまうたあまう。あおのひもあおのあ人教。今

う土地の如縁所へ有のまふ所へ。解死人不出りやア更
中へ。僕様はさふ人由り。あおの他あア知り人のあ
う。未練らうのうの場をさう選ぎ。死するまで隠さる
積り。ま處でおあいのを所う。サア、早く帰んませへト
しよして愛女のたうあけ。彼青春を懸と。青や眼
え不涙を流べ「モウあおがさうさういします。私、お裁の
川岸通うと小飛まんの。この以母う病氣もあ親音
さあへ出れをうけ。毎日おあをいさします。今日の生憎

いづくお用があらして... 後が... 並樹... 両個の侍... 可ぬ... 何と返す... 合せ... とく... 格... 刀... 類...

倒... 死ね... 悪... 見... 手... 宣... 青... 不... 世... 定...



ごきご思ひいらひ申あり。この中田甫の家美寺の和尚
といふの音併の玉者。さ不便つて二月をう。合衆客不成
つる他はう。君の安田幸八といひまはが。喰も今
目のことを他不玄て下さる。あト。喰て妻女いうち息改可
中田甫のさ美寺の私の宅の善提所。今をまへママ
不測も世縁。さして私の弱掛で爺祝の絹屋をさ
田舎得意ぐまいう。上列建及このま在を。高の寸分
仍りて此第由田舎の番。私の名へ絹と中。妹を

民その次の書。思を。表を。命。その次の妹。ち。家と。中。ま
ぐ。え。未。能。る。高。入。の。家。内。も。ま。く。固。竊。五。の。書。一。ま。ま。ま
どの。世。思。の。母。小。の。肉。を。後。と。さ。高。か。礼。を。い。う。ま。ん。ト
の。を。引。と。う。コレ。サ。く。史。と。う。ま。あ。く。も。は。高。を。し。この。い。た
入。小。の。ま。ま。ま。先。と。竟。小。口。の。建。の。の。別。小。何。の。書。報
よ。の。後。の。と。い。ひ。の。書。と。あ。ま。今日。の。こと。い。ま。ち。の。胸。小。書。の
と。流。め。て。祝。見。才。小。の。ま。ま。ま。異。ね。が。書。報。し。し。う。う。必
と。の。こ。ま。ま。を。あ。ま。ま。て。異。か。さ。る。あ。ト。喰。ん。か。絹。ダ。ハイ。く。史

あら。若くは口をぬきまはさまの使ひさうと腕のお麻まが
さぞか痛いたらうとぞいませらう子。宅うちあゝといふ麻菜まさいのありませ
けきと今のるふ念あまませんうらまはるる一幸「ナアニ麻まち
大おほきのやうなゆ。さ皮かわを切きてさう。海あまいさう仔細しじゆありか。
あゝ著まじ物ものはば指さ小血ちひが対たいさう人ひとグミさう異あや小ちひ忌
ら。夜よの明あけあひうち何なん格かくうと月つき小立こたてまのやう小仕
わら。アレモウ沙あさ茶ちやの戌いぬ刻ときとさうぞ。何なん時ときもををて由
同おなトと。さぞかちの内うちてか案あんトさう淋しみふけきと由

此こゝ処ところさう美み速すみ吾われ侘わがまをてつらて居ゐるさう。急いそがらあひ
お降り下くだ急いそまのまて今いまさう小こ何なんうふの送おくまこと也なり。
とあまの必かならずあらうね。暇ひま乞ねがひさうと。小こ足あしを早はやめて
こゝの帰かへる幸さいへらあまらうく見み送おくり。倍たがひ倍たがひとさう法ほう徳とく
をあらわらふ若わかの使つかが為ため小侍こざむらい兩個ふたごを殺ころすといふも
ゆらぬ罪つみ遣つかのたまふ自己おのれの麻まを受うけ。さう罪つみが目め
奉ほうごの口くちがあつても性しやうまらせず。人ひと小の隠かくれを病まがさす
長ながの月つき日の浪なみ人ひとお少すくさうりの行ゆきへ也なり。さあ瑞みづ果はて

その葎の佐持の情不服をこゝと食ふる毒まで一残の
働きのあまきの血のうゝ何れせんと胎のうぢ。沈吟
あつて由金砂の力つく小由及びあく。若くしてはま
をまぬ歩歩中田南宗芝寺すきて淨りけり

第二回

か得るあまきつらう家小をづくまおあつたら。はま
あつて成刻の鐘除まのまてありらして何れりのひこけ
あまきまのたらしんごる母こまお安来ドをうけるのこ

あまき。倘由水性あつてを。手あを取ると親みを受
あまき。あまきの解んと沈吟まて。性く路の。此方のそ
あまき。あまき。武ま湯といふ子剣より。石仕あまきの
あまき。あまき。抱つておあまきの懲りらつて。あまき
あまき。あまき。腹を膝まの懐練め。可サおあまき
あまき。あまき。浴を洗へる。あまき。あまき。音併い疾く物ぬ
あまき。あまき。の仕形と眼つま。大概まつて。あまき
あまき。あまき。とやう。あまき。あまき。あまき。あまき。

疎の表むすい。いしむの倍と情合がある。さうかおのりいこの
胸が。むらむらうして物事ゆ。さ小著ぬをり。四月
えんが。お絹の帰りが。ぬまの。きり。波き。処き。ゆき
えんて。まの。い。か。け。ら。ま。を。使。偉。と。さ。小。強。出。す。並
樹及。暗い。新で。窓。く。影。ハ。怪。い。と。此。を。隠。し。突。こ。も
あ。ぬ。男。と。女。換。投。が。う。い。堅。い。や。う。を。も。何。処。小。情。を
會。ん。と。視。ま。い。と。と。跡。小。著。ま。ま。ま。の。男。の。影。の。浪。人
の。と。さ。う。い。ふ。と。對。身。い。か。ち。何。時。の。名。小。被。指。み。治。帝

と。心。易。う。成。家。ま。の。う。大。外。と。膝。由。澄。ま。る。腹。目。あ。
さ。小。帰。つ。て。あ。の。と。ま。也。因。ま。え。へ。と。あ。の。と。候。妻。時。の
と。ま。明。く。地。う。う。が。大。強。ぎ。た。指。と。か。あ。ゆ。い。法。小。ま。る。緯
お。ま。の。う。う。程。あ。い。小。あ。の。う。い。け。方。田。の。ま。い。ぬ。と。飛。の。狗。を
押。つ。け。て。抱。く。と。指。の。目。か。ち。が。可。愛。い。い。あ。い。と。ま。小
あ。の。音。併。強。面。あ。の。ま。う。が。女。ぢ。あ。あ。ま。の。丁。交。時。が。り
よ。の。首。尾。ト。口。鏡。あ。ら。小。袖。口。う。の。ま。を。た。一。Swan。の。ま。ね
を。併。ひ。ま。指。を。ま。ん。と。す。程。小。お。得。の。勃。然。と。一。Swan。の。ま。

いかにて。響も。小走。は。ひの。若。後。さ。う。し。と。西。個。一。床。お。る。あ。は。つ。天。
下。晴。し。の。史。侍。さ。う。う。指。の。た。一。人。あ。ら。じ。う。の。ま。ま。と。ま。
ま。ま。の。お。互。小。堅。く。と。形。の。の。此。の。為。史。で。音。併。の。日。来。
う。ま。面。目。を。形。を。お。の。の。方。で。法。面。と。あ。ら。じ。う。の。ま。ま。と。ま。
あ。ま。は。ひ。の。新。き。よ。く。ま。ら。し。と。是。ま。あ。ら。じ。と。折。あ。ら。じ。の。
お。も。い。も。た。て。武。ま。清。の。り。く。と。息。は。一。古。格。で。た。る。ま。
い。底。の。あ。ら。蓋。の。あ。ら。じ。の。決。ま。ら。し。の。怪。し。の。今。の。雄。さ。
が。ら。の。音。併。の。合。息。が。一。つ。と。彼。入。の。合。息。を。一。向。来。受。
不。由。音。併。が。波。処。で。下。込。の。鼻。緒。を。切。く。困。り。て。形。と。処。
通。の。か。つ。て。専。して。あ。ら。じ。と。何。く。あ。ら。じ。を。信。切。不。ま。ま。と。ま。
娘。の。け。き。ど。う。ま。ま。と。ま。立。流。お。侍。何。格。と。ま。ま。と。ま。不。
獲。さ。し。ま。も。可。反。その。下。込。を。引。さ。ら。し。て。鼻。緒。を。専。
サ。ア。ま。ま。を。履。て。お。出。と。殊。小。籠。の。信。切。を。実。の。ま。ま。と。ま。
不。測。で。あ。ら。じ。と。ま。と。ま。小。礼。の。仕。や。う。の。あ。ら。じ。と。ま。ま。
い。せ。ん。事。り。て。名。を。も。受。と。ま。と。ま。ま。歩。形。の。あ。ら。じ。と。ま。ま。
明。く。あ。ら。じ。の。あ。ら。じ。と。ま。と。ま。波。処。を。別。ま。さ。し。と。り。決。サ。ト。ま。ま。

いかにて。響も。小走。は。ひの。若。後。さ。う。し。と。西。個。一。床。お。る。あ。は。つ。天。
下。晴。し。の。史。侍。さ。う。う。指。の。た。一。人。あ。ら。じ。う。の。ま。ま。と。ま。
ま。ま。の。お。互。小。堅。く。と。形。の。の。此。の。為。史。で。音。併。の。日。来。
う。ま。面。目。を。形。を。お。の。の。方。で。法。面。と。あ。ら。じ。う。の。ま。ま。と。ま。
あ。ま。は。ひ。の。新。き。よ。く。ま。ら。し。と。是。ま。あ。ら。じ。と。折。あ。ら。じ。の。
お。も。い。も。た。て。武。ま。清。の。り。く。と。息。は。一。古。格。で。た。る。ま。
い。底。の。あ。ら。蓋。の。あ。ら。じ。の。決。ま。ら。し。の。怪。し。の。今。の。雄。さ。
が。ら。の。音。併。の。合。息。が。一。つ。と。彼。入。の。合。息。を。一。向。来。受。

まを笑ふ受く丸ま「ま」また振うエま。美女いさみのまひづけおく徳が
あるマま。その治おらう界よのま破やぶ家かのまごと朝あさを
あぐ軒のきをくまるおとくお頼たののま母ははの枕まくらの側そばより。
遅おそくあまのまりひまのまのま様さまらつて程ほどもま。海うみせままのま海うみ
ぬ胸むね抱まつまひどま様さまぐまておま。その夜よを明あ一いつ次じの白しろの目め中なか
ろまひまありけまど外とへ出でままき方かた便べんのまあり。右みぎさま左ひだりさま
おまひまをまふ。今日けふのま祖母おばあさままの今日けふのま。さままま墓かみとま
ろをま祀まつて。おまの幸さい八はちをま祈いのるとまのま母ははおまのまひまけま。

母はは枕まくらをま揺ゆげまつ「ま」昔むかし侍さむらい由よし久ひさくま様さまてま居ゐるまうま。いま墓かみ
ままのまおまんまよまくまおまがま苦くるてまあまつまあまぐま。宗そう茂けい寺ていのま唄うた乃な
武ぶ玄げん傳でんのま由よし連れんてま性じやうとまがまのま「ま」まいまづまひまいまづまらままません。
私わたしがま武ぶ玄げんをまつまきま。出でままいまのま跡あとでま困こまるま。年としのま性じやうのま
おまをまりまごまうま。私わたしをま帰かへるままま。武ぶ玄げんをまおまのま房ぼうをまつま
おまはま作しやうへま下くださますま。格かく別べつなまるまのままませんまトま支し度ど
とまあまくまとまあま出でてま是こゝをま計はかるまおま中ちゆう晡ぷとまおまのま宗そう茂けい寺てい
おま到たうりま急いそぎま。早はやくまおま墓かみとまあまのま茶ちやのまおまへまとまてま納な所しよおま

あひ幸八ごを索ねんとあへど何うもゐるゑき不有
運こころしあけけるをり。十四五斗までのお年が。傍の
廊下を強奪の「安田さんが先刻の業をあらトて
呉ろといひます。彼の何方不ありまけんトいふ探す
折をひて。か柄の荒示すひ教「モレ今を伴と
安田さんと幸八さんのゐてございませんりエマシ「エマシ
根どございません「コヤとらあア丁を直うら。彼お方の昔
件の母が。かん易うございませ。先目の中も多から。花去へ

お出あさつて時。お尋ひあすのてきあひこの宗義寺
小進留して形るとは伴とある。あは波お尋ひのまら
筆どお知して知つてん小任せん。今日お寺あひを
して。モレまごを廻小かをあら。お目小かつてを伴を由。
こころまらつと申す。この卒私をその田子舎「田案内成
まのて下さのま「ナはも「ハハハ「田案内の「マサセ。サアは
方でございませんト「障子をあけて席下へ出まへお頼ら
んお教びて跡ふつきの「祈あどお。かの小姓の幸八が形る



子舎を昇て 何うぞよ小お目小かひりつゝといふ。お方が
お出あさいませ。トりひ替てきりゆく。お絹のきぬへ
来て して世脱の存のうらぐん。お世話あるのまじり
て。お紙の何指でございません。金件今お早くお尋ひ
中へいざいませ。何指の出指うございませ。竟に
くありませ。お尋ひの格別でもある内容の儀
お痛ともいませ。トりひ替て人お交れと。何色見えませ
小紙のいふ。よへ尋ひのいませ。トりひ替て紙の通

海いづ。仔細あり。ごまごまの世とア痛むのサ。お替て
お尋ひの音あり。茶を飲ぐ。このゆまが隠して居る。ろ
風茶を飲と云いお尋ひませ。ヨ。うへお絹えん。今日格
別。膝より重くお尋ひませ。お志の膝いづ。人か
何とも尋ひと尋ひ。お尋ひで十日お立。つらさる。お絹
ある。いづらう。お尋ひのいづ。お尋ひのいづ。お絹
より。お替て。お尋ひのいづ。お尋ひのいづ。お絹
まのころと尋ひて。お尋ひのいづ。お尋ひのいづ。お絹

成りど重く^{あゆしくまゐ}妻のてん人^{ひと}さみの名^なりくが^{ころ}愛^{あつ}のこ^ちな伴^りの
目を^め雁^{かり}のあつが^{えん}又あつが^りつと^りきく^び田舎^{ぢやう}子^すを^こけんあ^くの
あがア^き気が^き麻^{まし}ません^を何^{なに}指^さり人^{ひと}の^けあつら^いのや^りる^ふ
此^こ処^こへ^{まゐ}來^きり^めり^らの^あつ^まん^まい^ら「^幸左^さ指^さサ^そア^あま^あの
あ^あゆ^ゆけ^きさ^さど^ど「^幸何^{なに}処^ころ^ろ來^きる^まと^こに^いぢ^ぢづ^づら^らま^まん^んぞ^ぞろ^ろや^や
あ^あの^の何^{なに}サ^サ墓^む場^ばの^ま横^よを^を小^こ本^{ほん}ま^まが^があ^あつ^つら^ら「^幸掛^か旗^ぢが^が掛^か
つて^つあ^あて^ての^の外^げろ^ろ手^てを^を入^いき^きり^りや^やア^ア速^す小^こ困^ころ^ろ。そ^その^の何^{なに}処^ころ^ろを
運^ゆ入^いて^てた^たへ^へつ^つま^ま。お^お位^い々^じ々^じの^の恨^ごを^をく^くろ^ろう^うと^と思^しは^はる^ると^とむ^むに

この^{この}庭^{てい}先^{せん}ど^どろ^ろか^かん^ん下^げ掘^{くわ}敷^しの^の障^{しょう}子^しを^をあ^あけ^けま^まら^ら「^幸ア^アそ^その
墓^む場^ばろ^ろう^うの^のゆ^ゆく^く「^幸ん^んえ^えま^まん^ん成^{なり}り^りど^どろ^ろと^とあ^ある^る日^ひあ^あや^や
誰^{たれ}も^もの^の私^{わたし}ま^まい^いら^らう^う「^幸ま^ま「^幸此^こ處^こる^るを^を指^ささ^さく^く
と^と。澄^{すみ}紙^しど^どし^しの^のま^まを^をと^とり^りけ^けあ^あの^のせ^せ「^幸何^{なに}と^とい^いふ^ふと^とて
何^{なに}も^も指^ささ^さく^く。お^お目^めも^もか^かり^りま^まつ^つて^て「^幸ま^ま「^幸何^{なに}と^とい^いふ^ふと^とて
お^お命^{いのち}の^の私^{わたし}を^をご^ござ^ざい^いま^まん^んの^のう^う。麻^{まし}末^まも^もち^ちり^りと^と四^よ列^{れつ}の^のあ^あら^ら
ま^まん^んま^まの^の左^さ指^さと^と時^{とき}夜^よ着^{ちやく}着^{ちやく}服^{ふく}も^も大^{だい}お^お血^ちづ^づつ^つの^のて^てを^をあ^あら^らま^ま
と^とつ^つけ^けぐ^ぐ。何^{なに}指^ささ^さく^くと^とい^いま^まう^うと^と。何^{なに}も^もも^も指^ささ^さく^くと^とい^いま^まう^うと^と。何^{なに}も^もも^も指^ささ^さく^くと^とい^いま^まう^うと^と。

幸^あ「^あやア有^あごう。まう^あ初^あの^あ中^あ孤^あう^あい^あが^あ音^あ傳^あハ
久^あしの^あ浪^あ人^あ也。著^あ留^あの^あ衣^あ乾^あ由^あ沽^あ濁^あ。仕^あ方^あが^ある^あい^あら
と^あ物^あ早^あく。人^あの^あ記^ああ^あい^あら^あち^あ重^あ口^あ也。よ^あく^あ漢^あの^あ落^あし^あや^あこ^あ
波^あの^あり^あく^あ一^あ氣^あの^あ毒^あさ。テ^あ何^あ指^あう^あして^あ困^あ窮^あの^あ助^あけ^あを
あ^あい^あづ^あの^あ思^あを^あ百^あか^あが^あ一^あ由^あ報^あら^ある^あ乃^あ理^あと^あい^あひ^あて^あま^あ身^あの
親^あが^あり。よ^あき^あ沈^あ呻^あさ^ああ^あぐ^あと。胸^あの^あ痛^あめ^あう^あふ^あけ^あり

毬唄三人娘初編巻之上 終

毬唄三人娘初編巻之中

東都

松亭金水編次

第三回

初^あか^あ初^あの^あ七^あき^あより^あ後^あ親^あを^あ消^あ何^あや^ある^あ。能^あ統^あて^あ親^あ
を^あ此^あの^あ宗^あ不^あ笑^あ寺^あ不^あ走^あつ^あの^あき^あ。幸^あい^あの^あ病^あひ^あを^あ訪^あ入^あ口^あ
合^あへ^あき^あ合^あれ^あも^あと^あ初^あへ^あて^あ訪^あつ^あら^あ。其^あの^あ赤^あい^あを^あ見^あて^あ後^あ
り^あの^あら^あ。浪^あ人^あの^あ仇^あの^あを^あ害^あ窮^あを^あ極^あふ^あと^あり^あの^あ僅^ああ^ある^あ。初^あ
多^あ錢^あ也^あて^ああ^あら^あと^ああ^あら^あと^あ心^あ小^あ忘^あま^あ。聞^あの^ああ^あら^あと^あ已^あが

ちろあま けらぶ。或日まの例のごとく。庭はより来りお宿幸八のひを
覚示心天ひ「イヤよいか出てきう〜あがら。モウ昔作の疵
ゆら。何ぞ人づかふまのいと謂て。解まの度々おまのて
見えま。竟はの端おかるの。昔作の志のあま女の前
も。雜解をうけのらまとちあ。嫁入の邪魔おひあつる尾
までの志まのうく。不実とくあふまのうらモウ。毎日
やうにおおききえる。りまもてお宿のまねある。一いりま

かお指が。おびく。お作。とてけま。とて。お指りと謂て也
お子を例ひません。と。おおまのて。昔作もまて。昔作
ません。らん。親もまかあるの。何のて。加減ま。とを
おん。舞小あまの。と。けま。とて。却て。ま。若。出。迷惑。あ。り
石。から。見。らん。お。遠。く。ま。く。り。ま。ま。ま。ら。う。と。り。ひ。ひ。え
昔作お執つる。昔作八の。覚示。心。天。ひ。た。指。と。ま。あ。す。の。ひ。ひ
大。ま。ま。の。ま。ま。の。何。を。昔。作。が。迷。惑。一。ま。ま。ら。う。今。ら。ん
あ。り。波。見。と。り。の。解。を。う。け。て。え。と。ら。お。あ。の。身。の。形

おのあらうと。史が氣の毒さ。不吉招りのサ。今丁度
茶をいそいで一杯飲ませ帰して。下中す。隙を頂きこ
「イ有るうらまのまは。ト隙あぐ。幸八が。款を。この
めん吐も。吻き。一。ホ。ニ。平。三。悪。目。お。く。の。四。海。人。を。何。れ
合も。この。この。お。朝。し。ご。う。何。招。う。ご。う。ご。う。と。格。く
氣を。探。ま。ん。け。き。ど。何。を。中。に。日。祝。が。う。金。錢。い。自。は
お。あ。ん。ご。う。の。ご。う。と。あ。り。ま。せ。ん。一。あ。る。や。と。昔。何。の
差。考。の。つ。て。実。不。吉。恐。ま。ま。ん。の。サ。史。不。以。以。任。持。ご。う。

小遣小園の。と。ま。て。借。分。を。り。借。け。き。ど。史。を。返。す。宛
由。あ。小。園。の。好。友。在。食。客。不。あ。り。て。長。う。根。の。縁
由。あ。小。の。使。人。寺。あ。ま。び。ご。今。日。ま。だ。年。を。以。て。長。う。考。み
り。の。若。者。作。家。あ。り。二。月。勝。り。金。目。倒。し。の。長。う。ま。ね。家
理。何。招。う。金。の。二。三。兩。の。二。面。が。出。来。さ。う。と。入。り。ふ。あり。
是。ま。だ。の。禮。を。り。桶。川。在。の。場。芝。村。の。世。祝。族。由
あり。ま。ん。ご。う。を。短。へ。て。中。計。算。う。う。と。あ。り。て。い。お。つ。て。長。う
け。き。ど。あ。り。く。と。あ。金。の。出。来。さ。び。何。招。ま。ご。う。と。あ。り。の。サ。

新りふとこの頃の。恩がまうく喰えらるる。何とかなんて
格うと。二両をうの室。あまふ。勿論。彼地へ落著。心
とる。よア。倍返し。まん。祝が。その。糖。口。へ。世。格。と。持。む
の。勝。る。心。ま。い。や。う。ど。う。実。小。院。吟。小。そ。こ。う。ら。マ。ア。お
れ。き。へ。へ。へ。の。ど。何。格。中。漢。語。と。あ。ひ。ま。さ。ら。る。あ。ら。遠
く。あ。く。よ。て。お。ん。ま。く。他。小。子。ま。を。せ。ら。ト。持。む。ら。あ。小。も
の。毒。な。と。あ。ん。の。十二。分。教。と。と。ま。小。小。思。え。ら。ま。く。除
る。あ。ま。さ。容。小。と。え。け。ま。ら。お。何。い。笑。く。ら。ち。京。改。一。よ

位のことある。何格をもの。い。ま。あ。げ。ま。せ。ら。責。て。格。と。格
ま。の。金。さ。ば。ら。う。う。と。と。と。と。あ。ん。う。観。が。の。も。自。中。小。成
ら。ま。い。一。二。三。両。や。と。両。あ。ら。重。さ。未。ま。ん。現。在。お。て
と。あ。ま。さ。容。小。と。え。け。ま。ら。お。何。い。笑。く。ら。ち。京。改。一。よ
あ。ア。何。格。う。と。お。具。く。と。ら。や。ア。深。小。有。こ。い。お。あ
る。ぞ。の。能。と。ぢ。や。ア。僅。あ。る。ゆ。と。あ。ひ。ら。ま。ら。う。さ。い。や。い
目。あ。百。の。筋。を。也。工。面。の。出。来。る。りの。ぢ。や。ア。ま。い。ア。
ま。ま。ま。で。安。堵。く。我。一。四。兩。祝。や。兄。才。流。小。由。起。ま

あいやうふしてお兵衛ヨ（幸）とてやアお案下まてらまはる。
新（幸）して毎日あるのさ。知らせんおむきまはりのラ（幸）五根
う金餅（幸）このことを振う。お侍（幸）とやこのこと。先日のこと
を聞（幸）ふうけして。さうとおまき（幸）お福すまはらうと。はまて
お（幸）お救田（幸）のついでさうひて番ま（幸）このサ（幸）ヲ（幸）マ（幸）キ（幸）キ（幸）キ（幸）
母（幸）お気の弱（幸）いさあどのことあつ。早（幸）くは作（幸）が（幸）お（幸）は（幸）ら（幸）ら（幸）
ま（幸）ん（幸）ふ（幸）。ラ（幸）ヤ（幸）親（幸）湯（幸）の（幸）す（幸）う（幸）ち（幸）ふ（幸）。モ（幸）ウ（幸）申（幸）刺（幸）さ（幸）せ（幸）ら（幸）ん（幸）ら（幸）
ます。子（幸）。ド（幸）レ（幸）早（幸）く帰（幸）り（幸）ま（幸）せ（幸）う（幸）。サ（幸）ク（幸）ク（幸）サ（幸）ク（幸）お帰（幸）り（幸）ヨ（幸）。と

たもさへはさるべあやア。落（幸）懸（幸）時（幸）か（幸）あ（幸）ア（幸）あ（幸）う（幸）や（幸）せ（幸）う（幸）
「さ（幸）ふ帰（幸）ら（幸）う（幸）と（幸）な（幸）る（幸）も（幸）。竟（幸）ま（幸）て（幸）く（幸）あ（幸）の（幸）ま（幸）ん（幸）ト（幸）。暇（幸）を（幸）さ（幸）
遠（幸）う（幸）。息（幸）を（幸）早（幸）ち（幸）帰（幸）り（幸）中（幸）。爰（幸）お銀（幸）座（幸）の（幸）あ（幸）い（幸）者（幸）。
或（幸）ま（幸）清（幸）い（幸）お銀（幸）ふ（幸）ん（幸）を（幸）う（幸）け（幸）。後（幸）く（幸）お（幸）の（幸）ひ（幸）と（幸）ま（幸）と（幸）ど（幸）。彼（幸）の（幸）見（幸）
の（幸）と（幸）を（幸）案（幸）ふ（幸）様（幸）と（幸）。更（幸）お（幸）影（幸）引（幸）風（幸）情（幸）の（幸）あ（幸）く（幸）。さ（幸）う（幸）と（幸）
この程（幸）対（幸）面（幸）の（幸）雄（幸）士（幸）の（幸）誰（幸）と（幸）あ（幸）ら（幸）ね（幸）と（幸）ど（幸）の（幸）容（幸）の（幸）性（幸）と（幸）
あ（幸）ら（幸）い（幸）ま（幸）さ（幸）う（幸）後（幸）も（幸）。お銀（幸）が（幸）容（幸）ふ（幸）ん（幸）を（幸）著（幸）て（幸）傾（幸）け（幸）ら（幸）ぬ（幸）ら（幸）ぬ（幸）
ろ（幸）と（幸）若（幸）お（幸）智（幸）と（幸）て（幸）物（幸）案（幸）下（幸）の（幸）究（幸）め（幸）く（幸）唯（幸）り（幸）あ（幸）ら（幸）ざ（幸）ら（幸）う（幸）け（幸）る（幸）。



あつ困つてゐると存て母が慈母えいの血病も熱い
血病熱ある代の血方とま幼穉完で血異えあさる
人の中いやくやくと放蕩りあふあふあすつてさう
まゐつてゐる中まゐつて尾小尾をつけて繰るあぞ
たを清くいふ女房小むらひ腹立整「あんがそさか
かあつちるさねと女房小むらひ腹立整「あんがそさか
病氣ごとつて若い女児小似あぬけ状歳しくつて
妾あつちのまのやうあすつて向あつちの役目己の弟小野出せ

女房とてそを言ふ甘やうしてゐるあま
の枕をさかへ成りど昔併が病氣の所がけ執事さな
へ日まをいひてと云てあまけけまど今武ま来がりの
あつち毎日色く帰りのせひま酒をどを飲ま
容ろの一向えらけませんまの何のうる遠下半のいそ
せん「コレは武ま来の弟くそ背どけ嘘と飾らぬ
心連りの彼がらふ小嘘いあつちのまをさる女児の目
負をて自己小可言をいそせまると信つてのた指の

りぬ。ハテ困つてゐるのさ。下何やう明く眩まへ。おまねが
帰正を後身小あまは。おくそある。照順お得も
まへ。あけけ。心多。足由空強る。ぐく。ま。あ。る。
ま。踏ま。ら。の。安くと。結合。る。し。二両の金。何。指。し。て
こ。を。個。へ。ん。ま。考。ら。ぬ。髪。の。物。入。小。持。こ。く。傳。へ。小。金。
ま。の。時。の。間。を。合。え。ん。と。胸。間。小。針。救。く。つ。が。家。へ。な。ま。い。
か。の。ひ。ま。え。の。時。の。る。小。つ。父。老。ま。お。正。面。小。言。胡。坐。相。着。
る。し。指。さ。り。く。び。る。より。物。と。強。ま。て。入。る。兼。り。し。が

家々。と。隔。の。方。より。揚。る。ま。か。て。コ。リ。ヤ。お。傳。今。夜。お。ま。か。り
毎。日。外。へ。ま。る。う。ま。を。弄。る。と。り。の。傳。殊。小。母。が。この。病。氣。を。
来。も。傳。あ。い。妹。ど。も。小。お。け。け。て。あ。い。て。河。邊。へ。住。の。ご。ど。う。で
あ。ま。る。の。お。あ。ア。あ。ま。い。心。来。い。ま。い。と。一。足。の。外。へ。出。す。と
い。あ。ら。あ。の。ぞ。あ。い。の。は。あ。へ。引。電。で。見。せ。へ。の。あ。ま。い。と。ま
あ。ら。ぬ。ト。肘。ら。ち。注。て。怒。り。の。面。色。あ。ま。い。の。と。物
重。き。も。是。戦。慄。て。ま。処。小。傳。と。四。柱。げ。ん。と。う。四。柱。り
で。か。あ。で。さ。う。さ。い。ま。ん。私。が。毎。日。坐。ま。ん。の。数。冊。さ。ん。が

水の世病も何卒一日のうちに世を去るは世を去るは
おと存じて執事さるる世を去るは世を去るは
まゝの世を去るは世を去るは世を去るは
病とやすむの世を去るは世を去るは
いさむひていさむひていさむひていさむひて
まゝの世を去るは世を去るは世を去るは
かた指をももらうがお解を考へていさむひて
の世を去るは世を去るは世を去るは

許し由あるうが。自己の妻をいさむひて
然中あつて。或はあを供ふ若くは
飛ぶが世。モロ 年數ふあつて女見一人で
ていさむひていさむひていさむひて
何れもそ世にいさむひていさむひて
いさむひていさむひていさむひて
地いすまど。あつていさむひていさむひて

第四回

かくてお供の一人あひまゐりしその日、親兄弟を呼び
 つかひの幸へが祀所を訪ふ。元來、浮らるゝことあるは、
 なるまゝと下し。あの人をうのりしとあるは、人へのまじりて、
 條あるもあふその日を切さむ。怪しき事。親ひあひ
 見飛もある。を女らの禮の赤も念え、大なる平生、
 訪せむ。侍の款さきと。海人の此の便寸あき。うを
 廿二面の金と云ふ。を彼人の心の程、いつちあらんと。
 あいささふ。うのりのまき、此れお供の使へ、
 つかひ

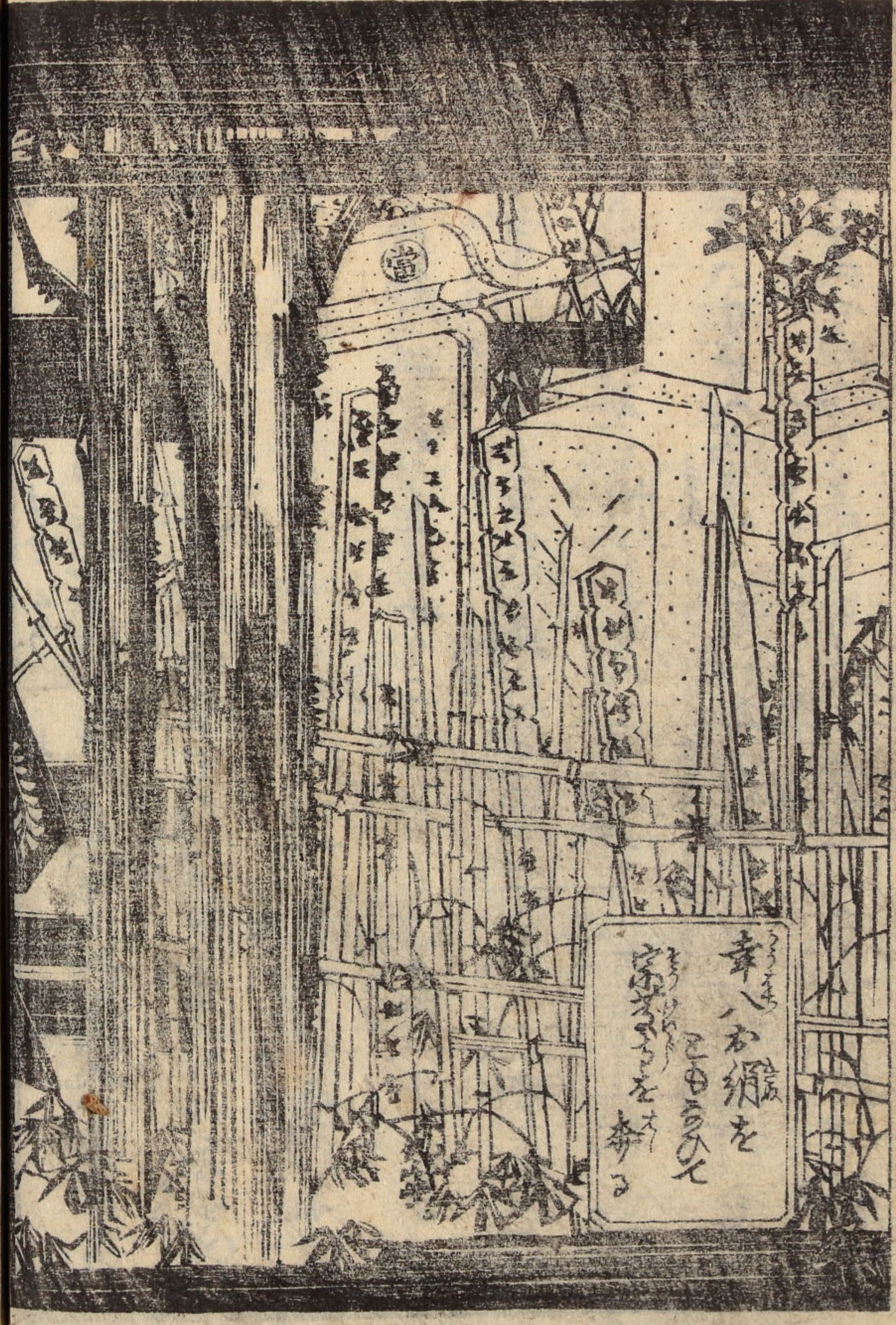
かくて所夫のあ。聖のあうを測て。彼人不安情させ。
 恩を測らば、何れも。とあるは、信しを圖らぬ。その身
 兼さぬ。何方の人の何やうか。若しうをまゐりて、
 生あひあふ。血版を。一箇不逆。蓋らると。あつと。可
 りぬ。身あふ。あひし。えのあ。ま。ま。ま。ま。ま。
 ちやその後の訪ひも。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 さい。再び。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 ま。

と見えの方ある熾火さういと細くと賦々けまびらる火ゆ
と見え と見え 細く 賦々 まびら
 時小あめぬらんと考へて母定らまうま今より彼処へ入
時 小あめ ぬらん と考へて 母定ら まうま 今より 彼処へ 入
と 途の ちと と 見 定 ま あ く 出 ぬ 前 より 拍 車 く 心 地 な ま ま
と 途の ちと と 見 定 ま あ く 出 ぬ 前 より 拍 車 く 心 地 な ま ま
 今宵も不傳りちりまあり心弱して慄やど
今宵 も 不傳り ちりま あり 心弱して 慄 や ど
 常備をく籠字く柱搦て葉と積火小子舎の
常備 を く 籠 字 く 柱 搦 て 葉 と 積 火 小 子 舎 の
 椀の二枝を音せぬやら不可定つ庭の切多の出る
椀 の 二 枝 を 音 せ ぬ や ら 不 可 定 つ 庭 の 切 多 の 出 る
 迹不石を傳うけ吹風不傳らぬやら不構へる心細く由
迹 不 石 を 傳 う け 吹 風 不 傳 ら ぬ や ら 不 構 へ る 心 細 く 由
 夫下よりの申甫存て出るやらが雷をと替き人通を
夫 下 より の 申 甫 存 て 出 る や ら が 雷 を と 替 き 人 通 を

滌ひぬまととの中の小の舌のまらぬ碎客の城弱あり
滌 ひ ぬ ま と と の 中 の 小 の 舌 の ま ら ぬ 碎 客 の 城 弱 あり
 委女といて我と感以破落産且先杉の校猪非道の
委 女 と い て 我 と 感 以 破 落 産 且 先 杉 の 校 猪 非 道 の
 所為をするの中のあき世あらぬと初更く八却てま又の
所 為 を す る の 中 の あ き 世 あ ら ぬ と 初 更 く 八 却 て ま 又 の
 若日若日を軒下に卧せ大の人の足音陸外れゆ吹まは
若 日 若 日 を 軒 下 に 卧 せ 大 の 人 の 足 音 陸 外 れ ゆ 吹 ま は
 声不動つ群りまて買出す一く唾つからりの吹くるとまま
声 不 動 つ 群 り ま て 買 出 す 一 く 唾 つ か ら り の 吹 く る と ま ま
 の心悟く飯を下さすのの心あきととの町をとことと長くと遊べ
の 心 悟 く 飯 を 下 さ す の の 心 あ き と と の 町 を と こ と と 長 く と 遊 べ
 余は委女の尻中をままとまの魂をく一尻中に懸懸まさ
余 は 委 女 の 尻 中 を ま ま と ま の 魂 を く 一 尻 中 に 懸 懸 ま さ ま
 漂くて申甫宗委女を小列と若き儀何処より入んと
漂 く て 申 甫 宗 委 女 を 小 列 と 若 き 儀 何 処 より 入 ん と

彼方こそあつたを誰巡る小松木の地の跡して。幸延より入る
い安けきほど。色どお凄き卵塔の傍小破き。白張の桃灯
をのろるさ小おみず。禪庭慄とて。足端入るさきん地かせほど。
初て果下と。気を励せ。潜り入りて。石碑の石を。かたぐ
かの幸ハコ子舎の傍へ。いさうつ。淋胸をまあぞ。知り。暗さあが
らふらあ。定うにらと。さうて。雨を斜味かと。あハ。幸ハハ
不果耳小ら。目をまえて。お鏡ふれ。まこあらく。さうち。教く。
と。河老と。張く。の。と。た。柄。が。ま。ま。一。と。か。の。ひ。の。く。け。ず。ま。こ。さ。の

客を驚かす。雨戸の透れ口を修せ。一。モ。し。お。須。や。さ。の。ま。ま。下
の。言。定。う。お。破。あ。き。と。今。以。何。と。て。お。須。が。ま。ま。さ。が。思。ひ
ね。藤。小。若。り。の。て。枕。欄。の。口。さ。い。ま。あ。ん。と。あ。い。か。ま。真。勝。あ。ら。ぬ
教。を。ま。こ。と。ら。お。と。で。気。を。あ。せ。う。て。さ。び。こ。の。味。ま。い。難。ひ。あ。い。と
破。定。か。幸。ハ。ハ。密。と。ま。り。も。雨。文。を。空。で。物。さ。し。可。ら。う。と。今
以。何。し。小。お。破。さ。う。怖。く。あ。ら。と。子。ハ。イ。疎。小。怖。と。つ。て。生
と。一。部。ハ。さ。い。ま。ま。ま。さ。ん。が。ま。あ。ら。ね。ら。む。お。須。へ。ま。ま。の。淵。ま。あ。い
る。が。も。の。で。史。を。や。う。く。ま。あ。の。ま。こ。一。古。指。う。正。さ。ら。や。ア。何。の



不海界儀の女児金と受く足を引く獲しのんと
福とあまううとそのあぶこの胸にふあきあまうの何
卒らあまうしとさ。保定をのを候つて悪んて入る
きく。史放ふか物束の金の綱ひひまうら。昔併うま
の掃箒。その位ふあうまう。活らうと笑らうと宜指
あてまうくの。四用ををて下まうと胸の涙をうも明て
紙小包と一品を幸八のふあけが。幸八のふてまを
供き世ををわくと吻き。た指のう候らう宜らうとふ。

ヤレく其の毒の毒千あ。ナニまて別ふ何指ありと。其の陰
方のいさうあまう。マアとままが指か帰ら。終ふ老命え
がまままふ。後をまて再うののを初く夜中ふとくあえ
モ。あてあてはは痛くああ後探らうま。あまあつま
あ。アレ昔併う近所まも。送つてあひらうらま。あてま
宅へ帰ら。ト刀を把て服をまて。中んとするをわ候つて
あて。ナニ一人を帰らまうら。送つてあひらうらま。あてま
併形角の昔併う。あ夜あひらうらま。あてま。この二品い何

ま 軍し。そと 處ある。復ひきよむ。佐持の邊をさきき簡
ま 元来宗教調度さき。あき此のうへに初く小島く。其の
ま くと兩個の舟を舟し。かの庭口より重なるのうへに
ま くらまらう出たり

毬唄三人娘初編卷之中 終

毬唄三人娘初編卷之下

東都

松亭金水編次

第九回

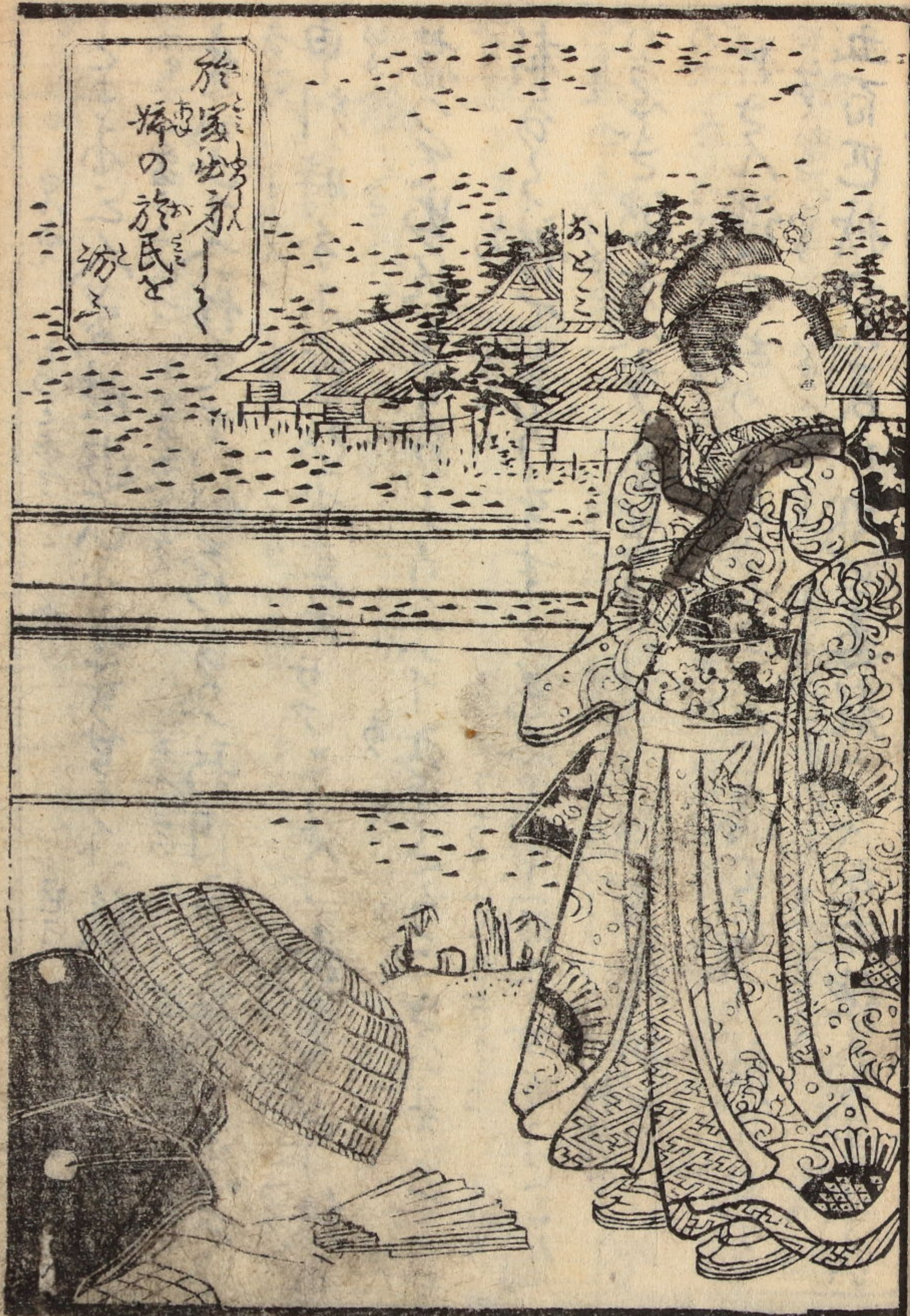
こ 子をあふ祝のふの切ある。いそぐと初まて人懐ゆ。浮
ま 世の義理と他人のち。その夜お術が家出ては方知
ま まねがまた去る。懐き女児と怒るさ。果の涙の雨宿り
ま 殊さう母の病の床。日暮よとして人並不懐も女児
ま の貞実さう。心不替うて飛らう。ゆらる天麻卷の魁

入つて来る。いふあまきとをきりて。祝同胞不歎きをうけ。人不
指さし笑いは。己をさるりの恥ら。と指病の瘰癧を
し。寒さあふさけるが相減る人由とをきく。不修く
て初まり。その服を尉心さめて心ありを尋ねんと
人のま由をふらふ。此処や彼処とさるる。又不知れ
ぬ。そのまふ。日殺積りてそのまき。さるる。言てその
明も年。次ある女児お民は十六妹不選て。此世をわき
ん地いさきと孫物をさるる人あるを僥倖不。そのさるる都

傳内と名不呼く。る。餘優の座小少て。事不散らちま
かる中の上と。世間の人の歎待を。幸野傳吉は二十五
六男振さく。陋し。入る。生申の高貴
よりの倍らん。と終不傳吉が新婦とあり。まの二年を
送るちどふ。事子の女児のお家の十三母は。不た病身
あて。祝ふその年世をさるる。然る。お家の年は。不
家小あまき。い。あ。う。ま。と。一。縉。紳。の。あ。る。家。老。世。旧
教負い。た。去。清。が。事。不。出。入。の。底。あ。る。り。その。あ。た。方。不

一町の北小町にひんぎの秋の風をとりあへぬ小の
あめ雲の眺をく木天が賛務しる香煙峰のうで
こまおのあまふへき虎や春の花の比ひもあはぬ糸地
ありこま春の船板塙。又紙のねのあはねとも。楓の格子
根府川の皆晩石小主さく麻くちり人さるりの構へ程
不笑うる鼓の音。清しき声小唄の節。聴さく人の涼さ
あり。折るる春の澄るるを徐くと引あけて「ト」かゝのこ
まらしまんとりの声。笑つて「ハイ」さあ「ト」鼓を止めて「五

出でこの家の女房の幸の以二十七八をうりの美女。綿織
純の産辨。ま一ッ小袖ふま縁子の。半放縦むすび
さげ。隙ふを空て教見あのせ「ヲヤおちのおまさん
よく尋ねて来て下さつて「サアくちのちへおよろヨ。涙不
久しうのぞ子へトしをましてけ方ハ小腰を屈め「教
お尋ねひまらしところつて。モウ種くお取巻で「ヲ右格と
らう格と。いおちのみのゆて飛る。「アアく大さ小傲倅
ど。ヲヤお供が大勢ど子「ナニさう格でもございません女



ともふ二人ぞ。些遊び小まませうト後を向て「左方
をハ山へ往てま似義あり。形内あり勝手小使て。
申刻時お小迎ひ小来ぬ。サアさぬア小まひご一紙小
送つて出立をうけとり「ハイおごうごごのまをた
ねあり往て糸のますト恙當申間下女を小。二個
い急ぎ彼方へゆく。お返りえ送る障子を締めて「さぬア
押さん僕小おあるいご。お土産の強をうりト紙小包ご
五百匹扱のお民の氣の毒教「ヲヤおあ他人がまじい。

は格ひてくお止ヨト推戻すのをまごお返「カニ疎小
かあなくって。お氣の毒どけまごまご何格由。昔傳の自
他不由あるまはう「少あ所う突小モウ何の中でお氣
の毒ごヨ。サア温くまのさか茶を「ハイあうごさう史の
左格と扱さん由困ごりめご子。傳昔さんと何人の義
人お似合るの昔人ご突ま「うけ。何格あてマ天
死を「左格サ疎小突うあつて「絶一人をあつてけま
と。壽命づぐの詮方うあいの史も昔傳うごまてく。

十年をくつ情不届て。夜をとまへ。昔古を志とらう。女
をこそおと敷小あぢやア。人小負やうと由思ひまぢや
ういへん。ととせむ。世も音併の時。侍者小の寄らる。い
とまごとの人さうサ。そのお蔭やア。今以て才の由減
を除あどあう。積り侍者せんが。届と時より。今ま
由ありまへ。まう。何ぞの時候う。と。お祓対座の言
あや。ふ細いと。思つこと。岐はあぢの。大爺の。お。見不入
大且。届。あ。ま。み。由。お。死。亡。ま。さ。う。今。ぢ。や。ア。お。ぢ。や。ア。ま。ま。

さま。由。因。根。と。ま。ま。何。時。ど。性。て。あ。あ。不。か。り。ア。ま。ま。
由。の。音。併。等。ま。ま。お。ぢ。の。侍。候。不。差。ひ。あ。ま。ま。左。折。し。て。ま。ま。
い。何。ぞ。の。時。候。か。持。こ。中。に。使。り。不。る。ら。う。と。業。候。あ。ら。う。と。
届。り。け。ま。ま。お。ぢ。の。方。の。お。侍。神。若。併。言。う。流。云。人。で。庇
か。を。い。ま。ま。大。ま。ま。お。遠。ま。ま。で。竟。く。性。候。く。つ。て。今。以。て。お。目
不。由。か。ら。ん。血。を。沙。汰。を。し。て。届。る。が。入。ら。お。ぢ。の。身。姿。う。う。
持。物。の。文。字。を。を。さ。る。不。念。流。り。物。を。う。り。で。性。言。る。物。の
つ。も。あ。ま。ま。左。折。し。て。入。る。と。お。ぢ。の。大。爺。の。風。流。見。の。あ。る。

か方子「た振」風流とりをゆるむの世を満中と
まじりて望む人のあつていけるけきとた振
ありません然して私の僥倖をいふは
りへのいふ事不実てまじりてヨ
がまじりていふ事不実てまじりてヨ
おのいふ事不実てまじりてヨ
今ぢやア老爺さん母さんお死亡なさる一
んのお老爺さんまじりてまじりて
おのいふ事不実てまじりてヨ

か在ごと。おはれ対面おゆるけきと何処お振して飛
おさるる一向風の便りあり疎なる細いやうとけきと
かちがた振り人听おはれ在ごととまじりてヨ
ておはれア近いうちおはれ是非おはれまじりてヨ
まておはれおはれおはれおはれおはれおはれおはれ
せんが昔併も今まじりて侍女でおはれおはれおはれ
見えやアお振しておはれおはれおはれおはれおはれ
くお振しておはれおはれおはれおはれおはれおはれ

ね後申しつゝけきと。夜々太師の筆のゆき。不忍不痛
といふ。持えんへね後して。何れか其の極まらぬといひま
うら。何卒未だてお異なさい。古報く。そりやアア
何より。古報のりん伏る。二三日のうちに。是れ報復にお
めお知らう。お屋敷のお名と天の都のお名を。お後
つけてあつておき。下出の巻紙と硯。お置のりん
まうくと。書ておき。お民のお名。一む。何れか其の極
まらぬといひまうら。何卒未だてお異なさい。古報く。そりやアア

の屋敷申し。毎回要人さん。アアしく。お屋敷へ。現色
堀の向ご子。夫より二三日お休ませ。何れか其の極
まらぬといひまうら。何卒未だてお異なさい。古報く。そりやアア
お屋敷申し。毎回要人さん。アアしく。お屋敷へ。現色
堀の向ご子。夫より二三日お休ませ。何れか其の極
まらぬといひまうら。何卒未だてお異なさい。古報く。そりやアア
お屋敷申し。毎回要人さん。アアしく。お屋敷へ。現色
堀の向ご子。夫より二三日お休ませ。何れか其の極
まらぬといひまうら。何卒未だてお異なさい。古報く。そりやアア

二十五年... 感... 眼...
... 方... 怨... 人... 脊...
... 低... 姿... 女... 良... 長... 病...
... 形... 細... 輝... 辛... 疲...
... 細... 洗... 浄... 穢... 穢...
... 漸... 遠... 月... 目... 必... 年... 誠... 良...
... 汗... 不... 心... 今... 長... 痛... 互... 汗... 積...

... 史... 史... 史...
... 怨... 元... 果... 教... 穢... 穢... 穢... 穢...
... の... 物... 寒... 寒... 寒... 月... 日... 送... 送... 送...
... 不... 圖... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛...
... が... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛...
... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛...
... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛...
... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛... 痛...

そこの前には。因果をあらう。詮方がある。と。自己いふこと
明らむてのま。小繫がる。そこの方の苦勞。あはれゆ。いふの。遊ご
沈滞。僅か。信を取らうと。朝の疾。く。昼夜の限り。秋業
針。徳い。は。見。さ。凍。る。霜。夜。の。雪。さ。ま。ま。境。へ。終。る。終。る
ま。心。う。眼。も。根。も。つ。く。ど。と。心。を。う。の。界。お。ち。海。へ。送。る
史。跡。の。口。ま。ぎ。か。く。と。ま。ま。を。見。終。り。早。く。死。ん。ど。自
己。の。来。る。方。い。ま。の。ま。の。こ。す。こ。ま。の。ま。ま。の。女。房。感。り。
唯。之。の。世。活。い。て。具。て。今。の。や。う。な。苦。勞。あ。る。ま。の。の。を

候。あ。ら。う。の。ま。ま。の。世。と。い。う。こ。と。の。ア。を。や。く。死。の。ト。の。ま。ま。の
が。ま。ま。の。ま。ま。の。こ。と。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う
眼。も。根。も。つ。く。と。い。う。こ。と。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま
い。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま
の。病。も。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま
あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う
と。考。え。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う
ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う。の。ま。ま。の。あ。ら。う

くさばらぬまゆぬ。き言て笔を置ゆ。るや。その時より
一。一。今。思。病。の。係。と。別。ら。そ。の。竟。の。相。小
除。つ。く。い。指。ま。と。り。出。し。若。か。乳。不。障。つ。く。は。思。し。く
さ。い。は。ま。い。り。を。良。人。が。引。こ。つ。て。や。を。自。己。が。乳。小
障。ら。ず。幸。う。こ。ひ。方。の。と。り。こ。ま。お。り。ぬ。を。由。り。新。と。も
さ。ら。な。指。あ。つ。て。か。く。と。兩個。を。巧。ん。ど。張。ゆ。も。あ。い。
櫻。あ。の。他。の。あ。つ。も。い。い。も。互。不。因。果。同。志。く。い。ひ。あ。り。く
き。方。の。お。蔭。に。雨。小。ゆ。り。と。ま。ら。ず。お。小。ね。と。は。九。尺。三。寸。の

瘦。世。帯。多。分。今日。まで。湯。多。う。熱。あり。啜。つ。て。飛。ぶ。ゆ。き。方
の。骨。折。る。の。うち。ぞ。い。初。晩。小。洋。手。ね。お。ろ。う。振。く。か。う。ふ。
唱。年。何。ゆ。が。ゆ。余。思。病。時。早。口。が。来。さ。し。兄弟。不。教。を。合
せ。る。形。ゆ。未。り。今。の。辛。苦。い。昔。形。し。と。あ。る。ら。ゆ。が。あ。り。ゆ
ま。や。う。早。免。治。の。こ。の。病。が。疼。こ。ゆ。て。この。難。儀。の。病
の。ま。小。業。り。と。や。り。悪。心。を。使。て。こ。の。お。ろ。う。の。ま。ま。と。き。き。方。不
潔。く。お。り。ひ。ま。を。け。つ。と。兩個。の。奴。等。を。亦。殺。し。此。方。の。い。ひ
不。更。婦。と。あ。つ。て。や。り。た。その。怨。讐。が。つ。ま。ま。と。い。ま。し。現。在。世。を

あそわ
の芝居よく由柳後流が。見ぶの小まあるとの。き
きまに控りて大爺由内長さん由。懐四が一世の
晴も赤活しとゆりさるるの。ぶ。藤抹ふ衣堂衣
も。あ。せらるぬと。の。ち。中。立井。九或ひ
左庄と祈く方とイヤウ。ど。り。控ふありて。控
土中をうけたり。漸く好この異服ら。出。木。家。
さく。ま。ま。を。仕。さ。る。は。い。何。方。が。正。は。り。業。う。出
入の仕立屋もあります。すけ。ま。ど。あ。の。ま。際。あ。や。ア。

あ。く。甘。く。社。め。ト。肉。長。さん。が。身。を。採。で。余。小。受
あ。の。世。ま。う。と。と。ろ。人。も。体。ま。り。初。う。ね。が。の。泥。町
の。形。り。ハ。祈。小。幸。八。さん。と。の。方。が。あ。る。その。肉。長。さん
の。か。柄。さん。ハ。女。で。と。あ。と。仕。ま。ね。い。の。席。の。花。土
中。心。也。二。と。下。ら。ね。を。利。ど。う。惜。し。い。ま。不。重。小。番
て。世。間。を。度。く。あ。あ。さ。う。ね。う。ろ。十。人。の。の。か。九。人。
あ。う。ぎ。その。か。柄。さん。ハ。お。ね。か。ね。中。一。ね。ア。好。と。池。舟
り。の。え。と。ま。ま。あ。ま。す。の。て。肉。長。さん。が。せん。と。う。



まき方らち子く性て。よあお須まん不ふんをくま。
仕立の注文の細り不書つけ。この中不ふんよこである
と。分付らまきてまありましくまの口鏡トて下ま
あートりひつ。袂裏をを解の祈謂。縞子紗綾
縞酒琥珀柳條古綴子あふび。金襴さくも堆言
く。鏡如梅の類ひもあり。お須のこまこまて「ヲヤ怪
ろね。マア何人が私を。そのやう不ふまうこら。以後の
むの良人が長い病を言て言て方不也。困てまはる

本終りの。太極細の縫いのまをいって他のるを
合せ。此方のるをまあふせて。舌まけきど頭
の衣裳殊不結構ある品。何指も私ふ出
来まうすまふ「古指あの一わらむとおあさんを一
本陰でまのこりのラ。是非おのこまらしまん。
他のりのより面倒ふ衣裳のるめてまのまんら
仕立貸入の何れど。そ処不厭目いごらうません
強の仔細らまてんの裡。まん束るくありまら。突苦

を神の情こころにて授けらるるりのめあへん。列ね業なりわい
 といひあざら。是日このひ又法并縁あつち。忠まねねくあへある
 ぶきくまうその果をあらうりて。至夜このよをけらす仕
 らてけり。

越唄三人根初編巻之下 終



太真遺傳
 精製桐の箱入
 處女香

そのく神かみの情こころにて授けらるるりのめあへん。列ね業なりわい
 といひあざら。是日このひ又法并縁あつち。忠まねねくあへある
 ぶきくまうその果をあらうりて。至夜このよをけらす仕
 らてけり。

